

我前の国山形又旅籠屋又兵衛といふ者へ相應せし世に六年まほ東京より
 女義太夫が来て良行せしおわさとの義太夫よりうつぬが又兵衛の素直な
 女房をたきとりに出奔んがして横濱でおわさと入りて追々金もつひきて
 諸事不都合なるにつけおわさの心算して衣類品の持出しして行下り
 孫又又兵衛親類も多し錢もあつせんさふき由東京で人力車馬の居りか
 国は残り女房へ夫が出し其見よりあきくせし今一度夫とて手合ふ
 一連の家業精出しるこけとま三年まほまきまきと人といふはしり
 婚とのりの嫁入をせぬと近所の人々ぞめめ言葉を耳まらひも
 丁度六年ひさし身のたより夫がめり歸郷のあつとまきとたのし
 風のたより又横濱でくして居るに聞よりも有
 其儘身どて入旅立して横濱でさせと跡も
 うごもあつせんさふきと東京の浅草寺ま
 参詣し門前又居る車やと身は正
 りか夫とさひまひつり傷屋花のたか
 嫁はゆふ亭主へ浮気は家名よにせ
 とつが夫とさつとせせせ立派は着
 ざり夫婦づき歸国をせしひさき
 真女をいへん美婦とやいへん

笹木芳麓

大阪錦繪新話



志保文蔵版

何皮之反